

白拍子と舞の解説と白拍子研究所プロフィール

院政期から鎌倉時代に流行したという幻の芸能〈白拍子（しらびょうし）〉



ときに演者自身も指すこの言葉は、平清盛が愛した祇王、仏御前、そして源義経が愛した静御前がその代表として知られています。これらの白拍子は美しいだけでなく、和歌などの教養も備え、白拍子の歌や舞に自らの想いを託し、物語や歴史に名を残したのです。

白拍子研究所は、研究・実践の両側面から絶えて久しい「白拍子」の再現を試みています。

この度の映像の舞は、四季のうち春と秋をイメージして制作いたしました。

白拍子の芸は「当意即妙—その場にその場にふさわしい振る舞いをする—」を旨とすると言われます。美しい日本の風景に、ふさわしい和歌を添え、白拍子の舞いをご覧ください。

【桜の舞】春の映像では、百人一首を編んだことでも有名な歌人、藤原定家の和歌「面影に 恋ひつつ待ちし さくら花 さけば立ちそふ 嶺のしらくも」とともに、京都嵯峨野の常寂光寺の美しい枝垂れ桜のもと、白拍子の舞の特徴である旋回し拍子を踏む様子をご覧ください。

【紅葉の舞】秋の映像では、三十六歌仙に数えられた歌人、凡河内躬恒おほしかふちのみつねの古今和歌集にとられた和歌、「風吹けば 落つるもみぢ葉 水清み 散らぬ影さへ 底に見えつつ」とともに、北野天満宮もみぢ苑の美しい風景のなか和歌の心を舞う白拍子をご覧ください。

【白拍子研究所】

院政期から鎌倉時代に流行したという幻の芸能「白拍子」について、実践と研究を重ねるべく、2015年9月に「今様白拍子研究所」として設立。2019年1月「白拍子研究所」に名称変更。神社仏閣での奉納活動を行うほか、文化振興を目的に、イベント、お茶会、講座など多数出演。<http://shirabyoshi-labo.com>